

【表紙】

【提出書類】	半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の5第1項の表の第1号
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2024年10月10日
【中間会計期間】	第76期中（自 2024年3月1日 至 2024年8月31日）
【会社名】	株式会社ミスターマックス・ホールディングス
【英訳名】	Mr Max Holdings Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 平野 能章
【本店の所在の場所】	福岡市東区松田一丁目5番7号
【電話番号】	福岡（092）623 - 1111（代表）
【事務連絡者氏名】	上席執行役員経営企画・財務部門管掌 石井 宏和
【最寄りの連絡場所】	福岡市東区松田一丁目5番7号
【電話番号】	福岡（092）623 - 1111（代表）
【事務連絡者氏名】	上席執行役員経営企画・財務部門管掌 石井 宏和
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 証券会員制法人福岡証券取引所 （福岡市中央区天神二丁目14番2号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第75期 中間連結会計期間	第76期 中間連結会計期間	第75期
会計期間	自 2023年3月1日 至 2023年8月31日	自 2024年3月1日 至 2024年8月31日	自 2023年3月1日 至 2024年2月29日
営業収益 (百万円)	65,524	69,183	129,570
経常利益 (百万円)	1,851	2,245	2,908
親会社株主に帰属する中間 (当期)純利益 (百万円)	1,196	1,455	2,444
中間包括利益又は包括利益 (百万円)	1,263	1,449	2,557
純資産額 (百万円)	32,836	35,008	34,129
総資産額 (百万円)	82,429	86,725	83,511
1株当たり中間(当期) 純利益金額 (円)	36.00	43.74	73.53
潜在株式調整後1株当たり 中間(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	39.8	40.4	40.9
営業活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	2,257	3,835	3,934
投資活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	1,187	700	2,611
財務活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	2,313	549	2,070
現金及び現金同等物の中間期末 (期末)残高 (百万円)	1,893	4,975	2,389

(注) 1. 当社は、中間連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 営業収益は、売上高と営業収入を合計したものです。

2【事業の内容】

当中間連結会計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当中間連結会計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当中間連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

経営成績

当中間連結会計期間（2024年3月1日～2024年8月31日）におけるわが国の経済は、雇用や所得環境の改善を背景に、緩やかな回復基調が続くことが期待されています。しかしながら、為替相場の急激な変動や原材料・エネルギー価格の高騰に伴う物価上昇が続く、その結果、経済の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社グループは、「普段の暮らしをより豊かに、より便利に、より楽しく」という経営理念のもと、総合ディスカウントストアとして、生活必需品を中心とした商品を毎日低価格で販売するエブリデイ・ロープライス（EDLP）を徹底し、それを支えるエブリデイ・ローコスト（EDLC）に注力してまいりました。値下げ企画やアプリキャンペーンを継続的に行うなど、お客様の普段の暮らしに貢献する取り組みを推し進めてきました。

当中間連結会計期間における全店売上高は665億22百万円（前年同期比105.6%）となりました。商品別売上では、市場の品不足により需要が高まった、米の売上が大幅に増加しました。アプリキャンペーンなどで積極的に価格訴求を行った、衣類用洗剤、ペットフード、紙おむつなどの売上が好調に推移いたしました。プライベートブランド（PB）商品については、家電製品や紙製品、食品などの品揃えを強化した結果、売上高前年同期比114.6%となり、売上高構成比は前年同期に比べ1.7%増加し、21.6%となりました。また、期間中に発生した地震や台風の影響で防災意識が高まり、防災用品や非常食、加工食品などの売上も大きく伸ばしました。

その結果、当中間連結会計期間の営業収益（売上高＋不動産賃貸収入＋その他の営業収入）は691億83百万円（前年同期比105.6%）、また、既存店の売上高前年同期比は106.2%となりました。

荒利益高は146億31百万円（前年同期比105.7%）となりました。荒利益率の高いPB商品の売上が伸び、部門毎には改善傾向にあるものの、荒利益率の低い食品の売上が想定より伸びた結果、荒利益率は前年同期と同じ22.0%となりました。

コスト面においては、DX関連の費用や、キャッシュレス決済手数料が増加するなどした結果、販売費及び一般管理費は、150億49百万円（前年同期比103.9%）となりました。

これらの結果、営業利益は22億43百万円（前年同期比118.1%）、経常利益は22億45百万円（前年同期比121.3%）、親会社株主に帰属する中間純利益は14億55百万円（前年同期比121.6%）と増収増益となりました。引き続き、収益の拡大とローコスト運営に注力し、業績向上に努めてまいります。

財政状態

(総資産)

当中間連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末に比べ39億13百万円増加し、230億75百万円となりました。これは主として、現金及び預金の増加25億86百万円などによるものです。固定資産は、前連結会計年度末に比べ7億円減少し、636億49百万円となりました。これは主として、差入保証金の減少2億6百万円などによるものです。

この結果、総資産は前連結会計年度末に比べ32億13百万円増加し、867億25百万円となりました。

(負債)

当中間連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べ25億78百万円増加し、293億63百万円となりました。これは主として、支払手形及び買掛金の増加18億70百万円などによるものです。固定負債は、前連結会計年度末に比べ2億45百万円減少し、223億52百万円となりました。これは主として、長期借入金の減少11億19百万円などによるものです。

この結果、負債は前連結会計年度末に比べ23億33百万円増加し、517億16百万円となりました。

(純資産)

当中間連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ8億79百万円増加し、350億8百万円となりました。これは主として、利益剰余金の増加8億56百万円によるものです。

セグメントごとの経営成績

当社グループは小売及びこれに付随する事業を行う単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(2) キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は49億75百万円となり、前連結会計年度末に比べて25億86百万円増加いたしました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は38億35百万円(前年同期は22億57百万円の獲得)となりました。これは主として、税金等調整前中間純利益22億25百万円、仕入債務の増加14億10百万円、売上債権の増加6億28百万円、法人税等の支払額7億19百万円などによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は7億円(前年同期は11億87百万円の使用)となりました。これは主として、有形固定資産の取得による支出6億51百万円、敷金及び保証金の回収による収入2億19百万円などによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は5億49百万円(前年同期は23億13百万円の使用)となりました。これは主として、長期借入れによる収入20億円、長期借入金の返済による支出31億20百万円、配当金の支払額5億99百万円などによるものであります。

(3) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について、重要な変更はありません。

(4) 経営方針・経営戦略等

当中間連結会計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当中間連結会計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

該当事項はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当中間連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

【発行済株式】

種類	中間会計期間末 現在発行数(株) (2024年8月31日)	提出日現在発行数(株) (2024年10月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	39,611,134	39,611,134	東京証券取引所 (プライム市場) 福岡証券取引所	単元株式数 100株
計	39,611,134	39,611,134	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2024年3月1日～ 2024年8月31日	-	39,611,134	-	10,229	-	7,974

(5) 【大株主の状況】

2024年8月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
BNYM AS AGT/CLTS NON TREATY JASDEC (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	240 GREENWICH STREET, NEW YORK, NEW YORK 10286, U.S.A. (東京都千代田区丸の内一丁目4番5号)	6,498.8	19.52
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	東京都港区赤坂一丁目8番1号	3,302.8	9.92
ミスターマックス取引先持株会	福岡市東区松田一丁目5番7号	2,776.1	8.34
株式会社 WaizHoldings	福岡市東区松田一丁目5番7号	2,178.3	6.54
有限会社HIRANO Management	福岡市東区松田一丁目5番7号	1,475.5	4.43
株式会社福岡銀行	福岡市中央区天神二丁目13番1号	1,414.2	4.25
MrMaxHoldings 社員持株会	福岡市東区松田一丁目5番7号	1,206.7	3.63
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番12号	988.0	2.97
平野 淳子	東京都港区	701.9	2.11
株式会社西日本シティ銀行	福岡市博多区博多駅前三丁目1番1号	510.0	1.53
計	-	21,052.5	63.24

(注) 上記のほか当社所有株式6,321.8千株があります。

(6)【議決権の状況】

【発行済株式】

2024年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 6,321,800	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 33,177,500	331,775	-
単元未満株式	普通株式 111,834	-	一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	39,611,134	-	-
総株主の議決権	-	331,775	-

(注) 上記「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、3,500株(議決権の数35個)含まれております。

【自己株式等】

2024年8月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社ミスターマックス・ホールディングス	福岡市東区松田一丁目5番7号	6,321,800	-	6,321,800	15.96
計	-	6,321,800	-	6,321,800	15.96

(注) 1. 上記のほか株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が400株(議決権の数4個)あります。

なお、当該株式は上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」の欄の普通株式に含めております。

2. 当中間会計期間末日現在の自己株式数は6,321,835株です。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．中間連結財務諸表の作成方法について

当社の中間連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

また、当社は、金融商品取引法第24条の5第1項の表の第1号の上欄に掲げる会社に該当し、連結財務諸表規則第1編及び第3編の規定により第1種中間連結財務諸表を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、中間連結会計期間（2024年3月1日から2024年8月31日まで）に係る中間連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による期中レビューを受けております。

1【中間連結財務諸表】

(1)【中間連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当中間連結会計期間 (2024年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,389	4,975
売掛金	3,467	4,095
商品	11,862	12,377
貯蔵品	43	43
その他	1,399	1,583
流動資産合計	19,161	23,075
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	14,355	13,866
土地	30,115	30,115
その他(純額)	4,067	3,963
有形固定資産合計	48,538	47,945
無形固定資産	1,561	1,510
投資その他の資産		
差入保証金	6,871	6,664
その他	7,413	7,560
貸倒引当金	34	31
投資その他の資産合計	14,251	14,193
固定資産合計	64,350	63,649
資産合計	83,511	86,725

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当中間連結会計期間 (2024年8月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,313	10,184
電子記録債務	6,830	6,403
1年内返済予定の長期借入金	5,920	5,919
1年内償還予定の社債	286	586
未払法人税等	791	823
賞与引当金	725	559
その他	3,916	4,888
流動負債合計	26,784	29,363
固定負債		
社債	1,142	2,199
長期借入金	13,261	12,142
退職給付に係る負債	917	926
資産除去債務	1,572	1,583
その他	5,703	5,501
固定負債合計	22,597	22,352
負債合計	49,382	51,716
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,229	10,229
資本剰余金	7,992	8,003
利益剰余金	18,159	19,015
自己株式	2,580	2,563
株主資本合計	33,800	34,685
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	232	233
繰延ヘッジ損益	3	3
為替換算調整勘定	5	6
退職給付に係る調整累計額	86	86
その他の包括利益累計額合計	328	323
純資産合計	34,129	35,008
負債純資産合計	83,511	86,725

(2) 【中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書】

【中間連結損益計算書】

【中間連結会計期間】

(単位 : 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年 3月 1日 至 2023年 8月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年 3月 1日 至 2024年 8月31日)
売上高	62,976	66,522
売上原価	49,139	51,890
売上総利益	13,837	14,631
営業収入		
不動産賃貸収入	1,918	1,986
その他の営業収入	628	674
営業収入合計	2,547	2,661
営業総利益	16,384	17,292
販売費及び一般管理費		
販売費	3,157	3,267
一般管理費	11,327	11,782
販売費及び一般管理費合計	14,484	15,049
営業利益	1,899	2,243
営業外収益		
受取利息	12	10
補助金収入	-	39
その他	31	54
営業外収益合計	44	105
営業外費用		
社債利息	0	3
支払利息	65	62
その他	27	36
営業外費用合計	93	103
経常利益	1,851	2,245
特別利益		
投資有価証券売却益	4	-
特別利益合計	4	-
特別損失		
固定資産除却損	79	19
特別損失合計	79	19
税金等調整前中間純利益	1,776	2,225
法人税、住民税及び事業税	541	778
法人税等調整額	38	8
法人税等合計	579	770
中間純利益	1,196	1,455
親会社株主に帰属する中間純利益	1,196	1,455

【中間連結包括利益計算書】

【中間連結会計期間】

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)
中間純利益	1,196	1,455
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	56	1
繰延ヘッジ損益	8	6
為替換算調整勘定	0	0
退職給付に係る調整額	2	0
その他の包括利益合計	67	5
中間包括利益	1,263	1,449
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	1,263	1,449
非支配株主に係る中間包括利益	-	-

(3) 【中間連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	1,776	2,225
減価償却費	1,263	1,318
賞与引当金の増減額(は減少)	311	166
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	21	8
貸倒引当金の増減額(は減少)	0	2
受取利息及び受取配当金	20	19
支払利息	65	66
投資有価証券売却損益(は益)	4	-
固定資産除却損	79	19
売上債権の増減額(は増加)	1,062	628
棚卸資産の増減額(は増加)	631	515
仕入債務の増減額(は減少)	1,430	1,410
その他	21	760
小計	2,584	4,478
利息及び配当金の受取額	7	8
利息の支払額	64	62
法人税等の支払額	344	719
法人税等の還付額	73	130
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,257	3,835
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	933	651
無形固定資産の取得による支出	422	147
投資有価証券の取得による支出	11	-
投資有価証券の売却による収入	14	-
敷金及び保証金の差入による支出	4	56
敷金及び保証金の回収による収入	255	219
預り敷金及び保証金の受入による収入	73	37
預り敷金及び保証金の返還による支出	97	79
その他	60	23
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,187	700
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	1,900	-
長期借入れによる収入	-	2,000
長期借入金の返済による支出	2,885	3,120
社債の発行による収入	-	1,500
社債の償還による支出	143	143
配当金の支払額	894	599
リース債務の返済による支出	292	192
その他	2	6
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,313	549
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,243	2,586
現金及び現金同等物の期首残高	3,136	2,389
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,893	4,975

【注記事項】

(中間連結貸借対照表関係)

(コミットメントライン)

当社は、運転資金の確保及び財務基盤の安定性向上のため、取引銀行4行とコミットメントライン契約を締結しております。このコミットメントライン契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当中間連結会計期間 (2024年8月31日)
コミットメントラインの総額	6,000百万円	6,000百万円
借入実行残高	-	-
差引額	6,000	6,000

(中間連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち、主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)
従業員給与手当	3,620百万円	3,717百万円
賞与引当金繰入額	564	560
退職給付費用	58	55
減価償却費	1,263	1,318
賃借料	2,428	2,429

(中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)
現金及び預金勘定	1,893百万円	4,975百万円
現金及び現金同等物	1,893	4,975

(株主資本等関係)

前中間連結会計期間(自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年5月25日 定時株主総会	普通株式	897	27.00	2023年2月28日	2023年5月26日	利益剰余金

当中間連結会計期間(自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2024年5月23日 定時株主総会	普通株式	598	18.00	2024年2月29日	2024年5月24日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前中間連結会計期間(自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)

当社グループは、小売及びこれに付随する事業を行う単一セグメントであるため、記載を省略してあります。

当中間連結会計期間(自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)

当社グループは、小売及びこれに付随する事業を行う単一セグメントであるため、記載を省略してあります。

(収益認識関係)

(顧客との契約から生じる収益を分解した情報)

当社グループは小売業を主な内容として事業展開しております。顧客との契約に基づき分解した収益は、以下のとおりであります。なお、当社グループは単一セグメントであります。

(単位:百万円)

地域	前中間連結会計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)
九州地区	39,761	41,789
中国地区	7,455	7,853
関東地区	15,583	16,780
その他	805	774
顧客との契約から生じる収益	63,605	67,197
その他の収益	1,918	1,986
外部顧客への営業収益	65,524	69,183

(注) 1. 「その他」はインターネット販売等の売上高です。

2. 「その他の収益」は不動産賃貸収入です。

(1株当たり情報)

1株当たり中間純利益金額及び算定上の基礎は以下のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)
1株当たり中間純利益金額	36円00銭	43円74銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する中間純利益金額 (百万円)	1,196	1,455
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 中間純利益金額(百万円)	1,196	1,455
普通株式の期中平均株式数(千株)	33,232	33,265

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の中間連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2024年10月10日

株式会社ミスターマックス・ホールディングス

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人
福岡事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 金子 一昭

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 廣住 成洋

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ミスターマックス・ホールディングスの2024年3月1日から2025年2月28日までの連結会計年度の中間連結会計期間(2024年3月1日から2024年8月31日まで)に係る中間連結財務諸表、すなわち、中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結包括利益計算書、中間連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の中間連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ミスターマックス・ホールディングス及び連結子会社の2024年8月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間連結会計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「中間連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

中間連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して中間連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から中間連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、中間連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において中間連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 中間連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、中間連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。
監査人は、監査等委員会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。
監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は期中レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBR Lデータは期中レビューの対象には含まれていません。